

コモンズ30+しずぎんファンド

追加型投信 / 内外 / 株式



基準価額の推移

2014年12月29日 ~ 2021年6月30日



※「分配金込基準価額」は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。※基準価額の計算において、運用管理費用（信託報酬）は控除しています。※当ファンドの信託報酬率は、ファンドの純資産総額の一定の増加により逡減する仕組みとなっており、当レポート作成基準日現在、年率1.265%（消費税込）です。



運用実績

2021年6月30日時点

基準価額

16,919 円

(前月末比)

+509 円 (3.10%)

純資産総額

10.0 億円

(前月末比)

+0.2 億円 (2.44%)

騰落率(分配金込)

期間	騰落率
1ヵ月	3.10%
3ヵ月	2.83%
6ヵ月	13.28%
1年	34.65%
3年	26.38%
5年	91.85%
10年	-
設定来	69.19%

分配金 (1万口当たり、税引前)

決算期	分配金
2016年12月	0円
2017年12月	0円
2018年12月	0円
2019年12月	0円
2020年12月	0円
設定来合計	0円

※「基準価額」およびその「前月末比」は分配後です。※「騰落率」は、基準日から過去に遡った期間です。税引前分配金を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。※分配実績は、将来の分配金の水準を示唆あるいは保証するものではありません。※収益分配金は委託会社が決定します。分配を行わない場合もあります。



ポートフォリオの構成比

種別	比率
コモンス30ファンドマザー	91.0
静岡銀行株式	7.8
現金等・その他	1.2
構成銘柄数	32社

※2021年6月30日時点



ポートフォリオの状況

業種別比率

機械	20.1%
化学	14.7%
電気機器	13.2%
サービス業	10.5%
輸送用機器	7.2%
卸売業	5.3%
情報・通信業	3.8%
医薬品	3.8%
陸運業	3.5%
食料品	3.3%
小売業	3.3%
金属製品	3.1%
建設業	2.5%
繊維製品	1.3%
その他	4.3%

未来コンセプト別比率

生活ソリューション	16.1%
ウェルネス	15.4%
精密テクノロジー	13.8%
新素材	10.5%
快適空間	9.6%
資源・エネルギー	7.8%
未来移動体	7.2%
地球開発	6.6%
ライフサイクル	5.6%
社会インフラ	3.1%
その他	4.3%

組入上位10銘柄

銘柄	未来コンセプト	銘柄概要	組入比率
1 KADOKAWA	生活ソリューション	IP創出力とIT技術力に支えられ、変化を恐れず挑戦し続ける	3.8%
2 エーザイ	ウェルネス	患者家族まで心を配る徹底したステークホルダー経営	3.8%
3 カカクコム	生活ソリューション	インターネットユーザーに「便利」を届け続ける	3.7%
4 東京エレクトロン	精密テクノロジー	創業時のエネルギーが、脈々と続く「革新」を続ける会社	3.7%
5 デンソー	未来移動体	自動車市場拡大の恩恵を受ける	3.7%
6 ディスコ	精密テクノロジー	kiru、kezuru、migaku、世界を代表する精密加工装置メーカー	3.5%
7 ホンダ	未来移動体	夢と技術で、難局をチャンスに変える	3.5%
8 信越化学工業	新素材	戦略的なポジショニングに優れ、素材メーカー随一の収益性	3.5%
9 ヤマトHD	生活ソリューション	「クロネコヤマトの宅急便」で親しまれる宅配便業界のトップ	3.5%
10 SMC	精密テクノロジー	工場の自動化に不可欠な空気圧機器で世界シェアトップ	3.4%

※2021年6月30日時点

※「ポートフォリオ別構成比」「未来コンセプト別比率」「組入上位10銘柄」に関しては、マザーファンドについての記載になります。

※各比率はマザーファンドの純資産総額を100%として計算しております。四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。

※その他とは現金等を指します。

◎「未来コンセプト」とは、当ファンドが行っている業種分類です。以下のように10種類に分類を行っております。

「資源・エネルギー」「新素材」「精密テクノロジー」「ウェルネス」「生活ソリューション」「社会インフラ」「未来移動体」「快適空間」「地球開発」「ライフサイクル」



運用状況

◎運用レビュー

6月のファンドの月間リターンは+3.10%の上昇となりました。

◎運用責任者メッセージ（コモンズ30マザーファンドについての記載となります）

6月の内外株式市場は、米国や欧州で行動規制が緩和されてきたことが好感され、米国ではS&P500、ナスダック指数、欧州ではドイツ、スイスの株価指数が史上最高値を更新しました。一方で、英国はじめコロナウィルスのデルタ株の感染拡大への警戒感や米国の金融政策の正常化が意識され始めたことが株式市場の重石となっています。国内株式市場は、ワクチン接種の進展を好感する局面もありましたが、世界的には日本株の出遅れが顕著な状況が続いています。そんな中、トヨタ自動車株が1万円の大台を超え上場来高値を更新したことは印象的でした。当マザーファンドは、月間では+3.64%の上昇、投資先31銘柄中20銘柄が値上がり、11銘柄が値下がりとなりました。

同期間のTOPIX（東証株価指数；配当込）は+1.19%の上昇、日経平均株価は▲0.24%の下落でした。当ファンドの株式の組入比率は、95.7%と前月比では▲3.4%の減少となりました。個別銘柄の月間騰落率ではエーザイが+48.48%の上昇、シスメックス、味の素、セブン&アイHD、日立製作所（上昇率順）の5銘柄が10%を超える上昇となりました。上場来高値を更新した銘柄はエーザイ、デンソー、KADOKAWA（銘柄コード順）の3銘柄でした。当ファンドの運用開始以来、投資期間が13年目となるエーザイが、米国バイオジェン社と共同で開発に取り組んでいたアルツハイマー病の治療薬が米国で承認されたことは、株価を大きく押し上げました。

さて、国内でのワクチン接種の加速は、秋以降の景気回復を後押しすると考えています。秋には追加経済対策の成立とともに衆議院の解散総選挙が予想されています。デルタ株など、まだ予断を許しません。秋以降の業績相場を当ファンドはしっかりと捉えていけると思います。引き続き、どうぞご期待ください。

最高運用責任者 伊井 哲朗

投資委員会メンバー

○伊井哲朗、渋澤健、上野武昭、末山仁、原嶋亮介/○は最高運用責任者

組入比率と組入銘柄については、マザーファンドについての記載となります。



新規組入投資先

なし



今月のピック！

◎ (4523) エーザイ

6月はエーザイの株価が48.48%上昇しました。

6月7日に、米バイオジェン社と共同開発を進めているアルツハイマー型認知症治療薬「アデュカヌマブ」が米国食品医薬品局（FDA）から、脳内の有害なタンパク質であるアミロイドβを減少させる効果があるとして承認申請が認められたことから、株価は2日連続のストップ高となりました。

「アデュカヌマブ」は、認知機能の低下を抑制する機能を持つ治療薬としては世界で初めての承認となりました。

2020年11月には、FDAの外部専門家による諮問委員会において「アデュカヌマブ」の有効性に全員が反対を唱えるという否定的な見解が出ていたことから、承認の可否は不透明な状況でしたが、2030年2月までに臨床的有用性の確認のために検証試験の最終結果を報告するという条件付きで承認されることになりました。

エーザイでは、今回の「アデュカヌマブ」の他にも、アルツハイマー型認知症治療薬の開発が着々と進んでいますので、そちらの方にも注目して参ります。

シニア・アナリスト 末山 仁

◎ (7267) ホンダ

今年の4月1日付で代表取締役社長に三部敏宏さんが就任しました。6年ぶりの社長交代となります。

1987年にホンダに入社、その後、エンジン開発を中心に四輪車の研究開発に従事してきました。ホンダは高いブランド力は持っていますが、株式市場の懸念として、自動車業界が脱炭素社会に向けて大きく変化するなかであって、戦略の発信が少ないことでした。

戦略をわかりやすい言葉で発信することは、社内が一つの目標に向かって進むこと、そして、社外にとっても中長期的な安心感につながります。社長就任後からとりかかっていることの 하나가コミュニケーションの強化です。

各本部のマネジメント間のコミュニケーションの強化に加え、戦略を対外的に発信する、IR（インベスター・リレーションズ）、広報、サステナビリティなどの部署間での統合的な議論の活発化です。

なお、4月下旬の社長就任会見で、四輪車事業では2040年にはEV（電気自動車）、FCV（燃料電池自動車）の販売比率をグローバルで100%にすることを打ち出しています。

シニア・アナリスト 上野 武昭

◎ (3407) 旭化成

旭化成が先に発表した2021年3月期決算は、売上高が前年対比で2.1%減、営業利益が3.1%減でした。年度の前半、自動車関連の事業などが苦しい時期がありましたが、住宅事業が比較的堅調に推移したこと、ヘルスケア事業では米国における人工呼吸器の急激な需要増があったこと、などによってそのダメージを最小限に抑えることができたという印象です。

同社の事業内容は多岐に渡りますが、事業ポートフォリオを常に磨き続ける姿勢がこの業績にもつながったと考えています。

それに加えて、5月に開催された経営説明会では、事業ポートフォリオ転換をさらに強力に進める考えを示しました。

これまでは収益性や成長性という観点で評価していたところ、それに加えて資本効率などで追加評価を行うということで、これにより評価対象となる60事業のうち15事業が「戦略再構築」という位置付けとなっていますので、その取り組みの進捗にも注目していきたいと思えます。

アナリスト 原嶋 亮介



こどもトラスト

5月31日、投資先企業クボタをお招きして、コモンズ30塾を開催しました。

クボタはコモンズ30ファンドの最初からの投資先になりますので、投資期間も13年目、この間株価の上昇は約5倍となっています。



長期投資を考えたとき、社会的な課題でもあり人類にとっても大きなテーマとして「食」がありました。当時世界の人口は70億人に達する直前でしたが2050年くらいには100億人程度に膨れあがると予想されています。

食は大きなテーマであり、食の問題は農業の問題でもあります。

クボタは農機具メーカーとして、優れた技術力を持っていました。

農業従事者にヒアリングをしても評価は高く（ブランド力を評価）、また、中国などアジアでは、耐久性も評価されていました（グローバル経営の推進を評価）。

また、企業文化として、1890年に19歳でクボタを創業した久保田権四郎氏は、日本で初めて水道管の国産化や農業の機械化を実現しました。

当時から社会課題を解決し社会に貢献することを実践され、今も続いています。

こうした背景などから「食料・水・環境」の分野で、長期的に企業価値を高めていけると判断しての投資のスタートでした。

そして今年2月、同社は2030年に向けた長期ビジョン「GMB（グローバルメガブランド）2030」を策定。豊かな社会と自然の循環にコミットする「命を支えるプラットフォーム」を目指して事業展開を進めています。

食の生産や安全性を高める、水資源や廃棄物の循環を促す、都市や生活環境を向上させる、といった内容です。

その中でも長期ビジョン実現に向けた動きとして注目されるのが、最近、積極化しているスタートアップ企業などとの提携です。

農業分野では世界的に担い手が減っていき、ドローンによる作物の画像認識を含むスマート農業といった、より効率的な農業も求められています。

そこで、スタートアップや異業種を含めた企業に出資する形で、種々のビジネスパートナーとエコシステムを構築し、その中心にクボタが立ち、命を支えるプラットフォームとしてトータルソリューションを提供する会社になっていく将来像を描いています。

イベント当日、2030年に向けてクボタが目指す地平はどこなのかなどについて、総務部 株式課 課長 中俊尚さまと経営企画部 IR課 課長 中林輝彦さまにお話を伺いました。

130年にも及ぶ社歴のなかでは、成長につながった局面、苦境に直面した局面など、さまざまなターニングポイントが今のクボタにどのように生きているのか、などをお伺いしました。

常にその時々々の社会課題を解決することによって課題を解決してきた、だからこそ、次の100年も「命を支えるプラットフォーム」として地球にとってなくてはならない存在を目指す、というお話がとても印象的でした。

対談の記事もぜひこちらよりお読みください。

<https://www.common30.jp/contents/dialogue/2142/>

左上からクボタ中さま、右上中林さま



マーケティング部 福本 美帆



ちょっといい話

【世界で活躍する日本企業に注目】

皆さん、こんにちは。

私は、今、連日のように大リーグのエンゼルス大谷選手の活躍をみて、コロナ禍のモヤモヤを解消していません。

米国のニュース番組でも多く取り上げられ、投手と打者の二刀流ということでかのベーブ・ルースとの比較もされているほどです。この夏のオールスター戦では、そのベーブ・ルースですら実現できなかった投手と野手両部門での選出となりました。本当に素晴らしい、まさに「あっぱれ！」です。

さて、大谷選手に限らず、アスリートが世界を舞台に活躍する姿を投資で考えてみるとどうでしょうか。大谷選手は、日本のプロ野球でも稼いでいましたが、最も稼げる舞台である米国大リーグに場所を移せば、稼ぎは10倍以上になっています。これを企業に例えてみると、日本でも稼いでいる企業が世界に進出して、世界の生活者に喜ばれる商品を提供して日本国内での利益の10倍以上の利益を出す。こんなイメージでしょうか。

よく日本経済は人口減少もあり低成長だから米国株に投資しないとダメ。との意見を聞きますが、私には固定観念にとらわれたステレオタイプのコメントに感じます。前述の例でいえば、日本の野球は米国よりもレベルが低いから米国選手じゃないとダメ。と同じに聞こえます。大リーグには世界中から優秀な選手が集まって来ます。なぜなら選手にとっては国籍は重要ではなく、自らの力を発揮し、稼げる地域でプレーすることが大事だからです。

つまり、投資においても国籍で企業を選ぶのではなく世界で稼げる企業を選ぶことが大切になるわけです。

日本企業でも、世界の大きな市場で稼げる企業は少なくありません。

当ファンドは、長期投資の観点から海外の成長を取り込める強い企業が必然的に多く組み込まれています。

投資先の約7割にあたる20社が海外売上高比率で50%を超え、うち10社は70%を超えています。

半導体製造装置で世界トップクラスの東京エレクトロンは海外売上高比率86%、同様にエアコンで世界トップクラスのダイキン工業は同77%です。大谷選手に代表されるアスリートだけでなく、世界トップクラスの日本企業もあるわけです。

当ファンドを通じて、世界で活躍する日本企業にも注目してください。もちろん、オオタニサンにも引き続き大注目です。

コモンズ投信代表取締役社長兼最高運用責任者 伊井 哲朗





販売会社一覧

販売会社名称	登録番号等		日本証券業協会	一般社団法人 金融先物取引業協会	一般社団法人 日本投資顧問業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
株式会社静岡銀行	登録金融機関	東海財務局長 (登金) 第5号	○	○		
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第165号	○	○	○	○
静銀ティーム証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長 (金商) 第10号	○			



投資リスク

基準価額の変動要因

当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資するため、その基準価額は変動します。したがって、お客さま（受益者）の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割込むことがあります。委託会社の運用により生じるこうした基準価額の変動による損益は、すべてお客さま（受益者）に帰属します。なお、投資信託は預貯金と異なります。

お客さま（受益者）には、当ファンドの内容・リスクを十分にご理解のうえ、ご投資の判断をしていただくよう、よろしくご申し上げます。

なお、下記のリスクはすべてのリスクを網羅しているわけではありませんので、ご注意ください。

基準価額の変動要因となる主なリスク

株価変動リスク	当ファンドは実質的に国内外の株式を組入れるため、株価変動の影響を大きく受けます。一般に株式の価格は、個々の企業の活動や業績、国内および国外の経済・政治情勢などの影響を受け変動します。株式の価格が下落した場合には基準価額は下落し、投資元本を割込むことがあります。
流動性リスク	有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性の下での取引が行えない、または取引が不可能となる場合が生じることを流動性リスクといます。この流動性リスクの存在により、組入銘柄を期待する価格で売却あるいは取得できない可能性があり、この場合、不測の損失を被るリスクがあります。
為替変動およびカントリーリスク	外貨建資産を組入れた場合、当該通貨と円との為替変動の影響を受け、損失を生ずることがあります。また、当該国・地域の政治・経済情勢や株式を発行している企業の業績、市場の需給等、さまざまな要因を反映して、当ファンドの基準価額が大きく変動するリスクがあります。



その他の留意点

収益分配金は、預貯金の利息とは異なります。収益分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益の水準を示すものではありません。収益分配は、計算期間に生じた収益を超えて行われる場合があります。投資者の購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的な元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。収益分配の支払いは、信託財産から行われます。従って純資産額の減少、基準価額の下落要因になります。



ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	販売会社が、別途定める購入申込手数料を申し受ける場合があります。なお、販売会社における購入申込手数料率は3.3%（消費税込）が上限となっております。
換金手数料	ありません。
運用管理費用（信託報酬）	ファンドの純資産総額に年1.265%（消費税込）を上限とした率を乗じて得た額とします。信託報酬は、純資産総額の一定の増加により逓減する仕組みになっています。
信託財産留保額	ありません。
その他の費用・手数料	当ファンドに組み入れる有価証券等を売買する際の売買委託手数料およびこれにかかる消費税等相当額などの実費が投資信託財産より控除されます。また、目論見書・運用報告書等作成費用、監査費用、信託事務に要する諸費用等として、純資産総額に対して年0.11%（消費税込）を上限として投資信託財産より控除されます。上記の手数料（費用）等の合計額については、運用状況、保有機関等に応じて異なりますので、上限額等を事前に示すことができません。



お申込みメモ

その他	商品分類	追加型投信/内外/株式
	信託設定日	2014年12月29日
	信託期間	無期限（ただし、ファンドの残存口数が10億口を下回った場合等には信託期間の途中で信託を終了させることがあります。）
	決算日	原則として毎年12月18日（休業日のときは、翌営業日を決算日とします。）
	分配方針等	毎決算時に、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないことがあります。当ファンドは分配金再投資専用です。よって、分配金は税金が差引かれた後、自動的に再投資されます。なお、収益の分配に充てなかった利益については、運用の基本方針に基づいて運用を行います。
	購入単位	販売会社によって異なります。詳しくは販売会社にお問合せください。
	購入価額	購入申込日の翌営業日の基準価額
	換金単位	販売会社によって異なります。詳しくは販売会社にお問合せください。
	換金価額	換金申込日の翌営業日の基準価額
	換金代金の支払い開始日	換金申込日から起算して5営業日
	申込締切時間	購入・換金ともに原則毎営業日の午後3時までです。午後3時を過ぎてのお申込みは、翌営業日のお申込みとして取扱います。



ご注意事項

- ・本資料は、コモンズ投信が投資家の皆さまに情報提供を行なう目的で作成したものです。
- ・このレポートは、信頼性が高いと判断された情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。記載された意見・見通し等は作成日時点のものであり、将来の株価等の動きやファンドの将来の運用成果を保証するものではありません。また、将来予告なしに変更される場合もあります。
- ・投資信託の取得を希望される方は、コモンズ投信または委託会社が指定した販売会社でお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）を必ずご確認くださいのうえ、ご自身の判断でお申し込みください。



関係法人

委託会社

コモンズ投信株式会社
〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-5 平河町Kビル5階

- ・金融商品取引業者
- ・関東財務局長（金商）第2061号
- ・加入協会 一般社団法人投資信託協会

お問い合わせ先

- コールセンター（受付時間/平日 午前10時～午後4時）03-3221-8730
- ウェブサイト <https://www.common30.jp/>